

対訳コーパスを使った日本語とタイ語における一人称表現使用の対照分析 —漫画における一人称表現の出現数を中心に—

スィリアチャー ロイケオ・上原 聡

東北大学大学院国際文化研究科

1. はじめに

一人称表現とは話し手が自分自身に言及するために用いる全ての表現のことである。一人称の種類は言語によって異なるが、日本語とタイ語の場合では大きく分類すると、人称代名詞以外にも親族名称・職業名称・固有名詞・指示詞が用いられる点で共通している。日本語やタイ語の一人称を英語など人称代名詞に限られ社会的な要因で変化しない言語に訳すことはあまり困難ではないと思われる。しかし、同じく人称表現の選択肢が豊かでありながら、社会の文化的構造や歴史的形成過程が異なる日本語とタイ語の間の翻訳においては、微妙なニュアンスに関する体系的な知識が必要となる。例えば、機械翻訳で英語の“I love you”と入れて、日本語とタイ語に訳すと、日本語では「わたしはあなたを愛しています」という文が、タイ語では「*chǎn rāk khun*」という文が産出される。文法的に間違いはないが、日本語とタイ語の“I”と“you”の部分では、年齢、性別、親疎関係社会的地位の差などによって使い分けられるため、様々な言葉が当てはまる。それに、両言語とも「愛しているよ」「*rāk ná?*」など一人称を非明示にして言う方が適切な時もある。

本稿では、日本語原作の漫画とそのタイ語版を資料とし、日本語とタイ語における一人称表現の特にその使用実態を対照し、出現数の差の要因を解明することを目的とする。

2. 研究対象及び研究方法

本稿ではタイでも広く読まれている日本語原作の漫画とそのタイ語版を対象¹とする。それぞれの第一巻をデータベース化し、対訳コーパスを作成する。会話に現れる一人称を50事例ずつ収集、合計350事例を分析対象とする。なお、収集する際、日本語タイ語共に一人称が明示された事例、ならびに片方の言語のみで一

人称が明示された事例もあるが、本研究では両事例を収集する。収集に際し先ずは以下のような分類項目を設定する。

- 1) 置き換え：原本では一人称が使用され、タイ語版もそれに対応する一人称が使用されている場合。
- 2) 追加：原本では一人称が使用されていないが、タイ語版では使用されている場合。
- 3) 省略：原本では一人称が使用されているが、タイ語版では使用されていない場合。

3. 結果と考察

表1 日本語とタイ語における一人称表現の出現数

作品	ドラえもん		名探偵コナン		クレヨンしんちゃん		ドラゴンボール		ワンピース		るろうに剣心		あさきゆめみし	
	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ	日	タイ
明示	21	50	28	49	27	48	29	48	30	50	30	44	36	49
非明示	29	0	22	1	23	2	21	2	20	0	20	6	14	1

表1を見ると、どの作品においても、タイ語の方が日本語より一人称表現の出現数が多いことが示される。さらに、日本語とタイ語の明示数と非明示数を割合で表すと、図1の通りになる。

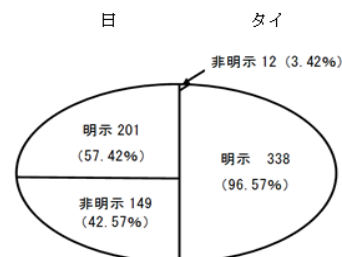


図1 日タイ語における一人称表現の明示と非明示の割合

図1で分かるように、一人称の明示数はタイ語の方が明らかに多い。今回のデータでは、日本語では一人称が明示されていないが、タイ語版では明示されている場合である「追加」ケースは149例であり、「省略」ケースを大きく上回っている。そこで、本稿では、「追加」ケースを取り上げて紹介する。なお、149例のう

¹ 対象とした作品は『ドラえもん』、『名探偵コナン』、『クレヨンしんちゃん』、『ドラゴンボール』、『ワンピース』、『るろうに剣心』、『あさきゆめみし』である。

ち、元々タイ語に対応するものがない6用例の意識を対象外とする。

日本語では一人称が明示されていないが、タイ語版では明示されていることの背景には、様々な要因が絡み合っており、それぞれの言語に一人称表現が非明示可能な場合と不可能な場合が存在する。本稿では、収集したデータ143例を分析した結果、次の要因があることが分かった。

- 3.1 両言語の構文によるもの
- 3.2 独り言の場面によるもの
- 3.3 文化・社会的な要因によるもの

3.1 両言語の構文によるもの

日本語には主語が「一人称」か「非一人称」かの違いを明確にもつ述語が多く、これらの述語は、「意思や希望」また「感情や感覚」を表す述語に多いと成山

(2009: 47) が指摘している²。よって、内的状態述語には人称制限があり、一人称主語は省略されても分かる。一方、タイ語では基本的に日本語のような動作主の人称を規定する文法形式がないため一人称表現を明示することが必要となる (Uehara 2012: 131)。

本稿では、主語のみならず、日本語のにおいて誰のことについて言っているのかを規定する特徴を持っている文法形式は ①内的状態述語 ②授受表現 ③敬語(謙讓語) ④受動表現 ⑤内と外を表す表現 が挙げられる。よって、日本語では一人称表現がなくても話し手が分かるのに対して、タイ語ではそのような文法形式がないため、基本的に一人称表現を明示することが必要となる。具体例は以下に示す。

① 内的状態述語

日本語の文法は話し手が自分自身の内的状態を説明する時、他人の内的状態を説明するときでは明白な区別があるとされている (Iwasaki 1993, Uehara 2012)。よって、内的状態述語には人称制限があり、一人称主語は省略されても分かる。一方、タイ語の述部においては、「~canj」(=すごく)という言葉を除けば、タイには日本語のような人称制限がない (Uehara 2012: 131)。

感覚

出典：『クレヨンしんちゃん』- 幼稚園の子供の台詞

(1J) えーん こわいよー

² ただし、その制約には強さに違いがあり、制約が弱く他の要因があると一人称以外の人称表現でも使用できるものもあると成山 (2009: 48) が述べている。

(1T) ηεε khāw klua
泣き声 一人称 こわい

思考

出典：『ドラえもん』- のびたの父親の台詞

(2J) 思い出すなあ、子供のころを。

(2T) ...phǎw núk thǔŋ tɔɔn dèk dèk
一人称 思い出す 子供のころ

② 授受表現

タイ語の「hây」は日本語文での「くれる」と「あげる」のような区別がない。そのため、ほぼ一人称が明示されることになる。

出典：『ワンピース』- ルフィの台詞

(3J) 連れてってくれよ 次の航海!!

(3T) òk thá-lee khraaw-nâa phaa
航海 次 連れる
chǎn pay dûay ná?
一人称 行く も ね

③ 敬語(謙讓語)

日本語では、謙讓語があるため、一人称表現を入れなくても、話し手の動作だと分かるのに対して、タイ語では、王族やお坊さんに対する特殊な言葉遣いを除けば、日常会話では、日本語の謙讓語のようなものがないため、一人称を明示することが多い。

出典：『名探偵コナン』- 執事の台詞

(4J) …食事の用意をしております、ずっと食堂に

(4T) phǎm triam aa-hǎan yùu nay
一人称 食事を用意している 中
hǔŋ-aa-hǎan khrap
食堂 丁寧接尾辞

④ 受動表現

タイ語では受動文があるが、日本語のような文の中の意味関係を表す「助詞」がなく、語順で意味が変わるため、動作主と動作を受ける人を明示するのが一般的である。

出典：『クレヨンしんちゃん』- 園長の台詞

(5J) 園児に地上げ屋って言われた…

(5T) chǎn tùuk dèk dèk
一人称 ~られる 園児
↓ ↓
動作を受ける人(話し手) 動作主

hǎa wáa pen phôo-kháa-nâa-lúat
 言う copula 地上げ屋

⑤ 内と外を表す表現

日本人は家や会社に対して帰属意識が強い民族のため、「人」や「人に関係する」名詞を二つに分け、内の名詞はふつう1人称（私の）扱いになり、外の名詞は非1人称扱いになる（成山 2009 : 63）。それに対し、タイ語は「兄ーお兄さん」「弟ー弟さん」などのような「内と外」の使い分けがないため自分の家族の人について話す時をはじめ、聞き手が分かりやすいように1人称表現を追加する傾向が高いと考えられる。

出典：『るろうに剣心』 - 伍兵衛の台詞

(6J) 兄貴から聞いたぞ

(6T) phîi kháa lăw hây faŋ
 兄 一人称 話す させる 聞く

3.2 独り言の場面によるもの

池上 (2004 : 17) は独り言の場面で話し手が自分に呼びかける際に、日本語では一人称が使用されていると述べている。また、自分自身を対話の相手として客体化し、英語で“you”で語りかける文を熟練した翻訳家に訳させると、二人称のところは一人称に訳されるのではないかと池上 (2004 : 18) が指摘しているが、一人称が使用されている場面について詳しく言及されていない。本研究のデータにおける独り言の場面を見ると、日本語では、一人称が使用されている用例は二つしかない。二つの用例は以下に示す。

出典：『ドラえもん』 - スネオが鏡を見ている場面

(7J) いつまで見てもあきないなあ、ぼくの顔は。
 美しいということばは、ぼくのためにあるんだなあ。

(7T) duu múa-rây mây bùa
 見る いつまで あきない
 ləəy nâa chǎn nîa
 全く 顔 一人称 なあ
 kham wáa lòo nîi
 ことば という かつこいい この
 mii khún maa sǎm-ráp chǎn cing-cing
 出て来る ため 一人称 本当に

出典：『ドラゴンボール』 - 孫悟空の独り言

(8J) しかし、まいったなおら空とべねえもんな・・・！

(8T) yêe hé? raw kôo hò? mây dây sá?duây
 しまった 一人称 とべない も

以上の (7) (8) は独り言の場面で一人称が使用され

ている用例である。二つの文の共通点はほかの人ではなく、自分のことであると強調するため、一人称が用いられていると思われる。つまり、(7) は「ほかの人の顔」ではなく、「自分の顔」であると限定するために一人称の「僕」が用いられていると考えられる。(8) の場合、話の中では、恐竜は飛べる恐竜であり、ブルマを連れて飛んでしまった場面である。孫悟空は自分が恐竜と違って、飛べない生き物という対比の意味で一人称の「おら」が用いられていると考えられる。ところが、興味深いのは残りの独り言の場面 10 用例を見ると、日本語では一人称が非明示にされているのに対して、タイ語では一人称が全て追加されている点である。つまり、日本語とタイ語は、独り言の場面で、自分のことを指す場合は一人称が使用されるが、日本語では、「対比・限定」ではない限り、一人称がほぼ非明示にされ、タイ語では常に一人称が明示される。具体的な例は以下に示す。

出典：『ドラゴンボール』 - 孫悟空の台詞

(9J) …たすけてほしいのか！

(9T) yàak- hây raw chûay nán rǎə
 てほしい 一人称 助ける 疑問詞

出典：『あさきゆめみし』 - 桐壺の台詞

(10J) おおくをのぞんできたわけではない…

(10T) raw mây dây wǎŋ sũŋ mâak-maay
 一人称 ではない 高望み おおく

3.3 文化・社会的な要因によるもの

言語学的な側面のみならず、文化・社会的な要因もそれぞれの言語の一人称の明示・非明示を促すことになると考えられる。日本語では、一人称の過剰使用は自己主張が強い人にみられるなどあまり好まれないと言われている。また、日本語に非明示が多いのは、一人称表現のみならず、日本人はできるだけ会話の中で人称表現を使用しないで済まそうとする傾向にある（鈴木 1973 : 145）からである。一方、タイ語では、話し手がその場に適切な一人称表現が見つからない時は一人称を非明示にすることもあるが、一人称を明示した方が丁寧とされている。特に、両親など目上に対して、一人称を明示しないと、ニュアンスが硬くなり、両親に対する尊敬が重視されていないと思われる可能性がある（シンカーリン 2002 : 200）。その背景には王様や王族に対する一人称表現の由来にあると考えられる。

Nasawat (2009 : 51, 61) は王様や王族に対する一人称表現に関して次のように述べている（筆者訳・編）

王様や高位の王族に対する言葉は「khâa-phrá phút thacâaw」である。文字通りの意味を見ると、「khâa」は奴隷という意味であり、「phráphút thacâaw」はお釈迦様という意味である。この一人称は王様を「お釈迦様ようだ」と喩えており、話し手が自分自身を低めて、「お釈迦様の奴隷」であると喩えている。また、一般の王族に対する一人称は男性用と女性に分かれている。男性用は「kramòm」であり、女性用は「kramòm-chăn」である。

「kramòm」は頭の一番上の部分という意味である。タイでは頭が体の中で一番高い部位にあるため、一番大事だとされている。そこで、話し手が自分の体の中で、一番大事とされているものを一人称にすることは相手に敬意を払うことになる。

現代のタイ語の日常会話でも上記のような説明が可能である。女性の一人称は「dichăn」(上の kramòm-chăn の「chăn」から派生したとか思われる)や「nũu」(＝ねずみ)があり、男性は「phǒm」(＝髪の毛)といった一人称が使用されている。「nũu」という一人称は自分を小さい動物に喩えて自分を低めることになり、髪の毛という意味である「phǒm」は自分の体の中で、高い部分にあるため、聞き手に敬意を払うことになると考えられる。このように、いくつかのタイ語の一人称表現の由来は聞き手を高めるために自分のことを謙虚に言及することなのである。一方、日本語の「僕」は下男の意味で、自分を相手のしもべと称して、かつて相手に敬意を表す語として使用されていたが、武家教養層などの使用を経て、1860年代には謙讓性の低い語になり、明治になっていわゆる書生が愛用し、一般語になったという(小松・鈴木 2011: 832)。

さらに、日本語では、丁寧さを表すために動詞の活用で、尊敬敬語、謙讓語、丁寧語があるため、一人称を非明示にしても丁寧さを表すことができるが、タイ語では丁寧接尾辞の「khâa」(女性)「khráp」(男性)しかない。従って、タイ語では、丁寧さを表すために、聞き手に相応しい一人称を選択し、明示することが必要になる。特に、両親など目上に話す時、日本語では非明示にされることが多いが、タイ語では、ほぼ明示される。収集したデータでは目上に話している場面において日本語では一人称が非明示にされているが、タイ語では一人称が追加されている例が多くある。具体的な用例は以下の通りである。

出典：『ドラえもん』- スネオがお母さんと話している場面
(11J) 教室のそうじをひとりでやりました。

(11T) **phǒm** tham khwaam-sà-àat hōng-rian
一人称 する 掃除 教室
khon-diaaw læəy **khráp**
一人で 全く 丁寧接尾辞

4. おわりに

これまでの日本語とタイ語の一人称の出現数に関する研究は、社会的な観点あるいは文法的な観点からの考察がほとんどである。また、文法的な観点からのものでは、主語のみ注目したものが多く。そこで、本研究は様々な要因を考慮し日本語とタイ語における一人称表現の出現数を総括的に考察することを試みた。その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 日本語とタイ語は両方ともゼロ代名詞言語で、基本的には一人称を非明示にできるが、日本語の方が圧倒的に非明示の数が多い。
- 2) この現象の背景には、両言語の構文によるもの、独り言の場面によるもの、文化・社会によるものがある。

今後の課題は対象を一人称表現のみならず、二人称表現、三人称表現に広げ、両言語における人称表現の使用実態の異同をさらに明らかにしていくことである。

主な参考文献

- 池上嘉彦 (2004) 「言語における〈主観性〉と〈客観性〉の言語的指標 (2)」山梨正明他編『認知言語学論考』4 ひつじ書房, 1-60
- 小松寿雄・鈴木英夫 (2011) 『新明解 語源辞典』三省堂
- シンカーリン・カノック (2002) 「社会的な観点から見た日本語とタイ語におけるゼロ代名詞」『藝文研究』慶應義塾大学 82, 201 (168)-186 (183)
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』岩波書店
- 成山重子 (2009) 『日本語の省略がわかる本 誰が? 誰に? 何を? How can we know who did what to whom in Japanese? The Grammar of Omission: Less is More』明治書院
- Iwasaki, S. (1993). *Subjectivity in Grammar and Discourse: Theoretical consideration and caase study of Japanese spoke discourse*, Philadelphia, PA: John Benjamins.
- Nasawat, S. (2009). *The Honorific System Reflected In Salutation, First And Second Person Pronouns, Closing Terms And Responding Particles In Thai Royal Vocabulary* (Master Thesis) Chulalongkorn University.
- Uehara, S. (2012). The cognitive theory of subjectivity in a cross-linguistic perspective: Zero 1st person pronouns in English, Thai and Japanese. *Typological Studies on Languages in Thailand and Japan (Hituzi Linguistics in English 19)* Hituzi Syobo, 119-136.